

ああグツと

(平成十五年 度寮歌)

井口拓君 作歌
持田翼君 作曲

一

もしも海が酒ならば
お前は魚になるといふ
俺は渚の貝になる
波が来るたび酒を飲む

二

つまみはそうさ俺の脳
酒にとろけた脳みそさ
代わりにお前を 盃に
空の頭蓋に酒を注ぐ

三

明日は泥土に墜ちるとも
今は昇らんはしご酒
美しい盃を重ねては
その身月にも届くべし

四

盃もめぐりて今や今
魍魎魍魎が顔を出す
ヤマトノオロチ現れる
大トラ小トラ管を巻く

五

更け行く夜に浮かぶ月
窓辺にうつる影は今
何をし何をされるのか
月は黙って見るばかり

六

中天高く日は昇り
今日もマゲロの大漁旗
死屍累々の戦場に
兵どもが夢の跡

七

天の夢から落つこちて
今日は地を這う宿酔
「なぜ繰り返す過ちを」
空しく響くいつもの問い

八

積んでは崩す 盃は
賽の河原の石積みか
それでもいつか天に着く
その日を信じ 盃を酌む

九

とかく憂の多い世を
されば払えよ玉帚
積もる芥の流れては
自ずと心開くべし

十

たとえ百年生きたとて
わずかに三万六千日
されば尽くさんこの盃を
一日必ず三百杯